



ふかがわの花弁 全国を彩る 〜実は作付戸数全道1位〜

本市では主に切り花類のスターチスやグリシアなどの花弁（かき）栽培が盛んで、花卉類の作付戸数は全道1位で年間販売額は例年6億円に達します。
今月は、本市で栽培されている花卉の概要や生産者の声について紹介します。

ふかがわの花弁の 歴史と現在

本市の花弁生産は、昭和55年頃より水田の転作作物として導入され、昭和60年を境に急速に広がりました。

導入当初の作付面積は1ヘクタールに満たない規模でしたが、平成3年には約18ヘクタールに拡大し、7年間で約20倍となりました。また、作付戸数は22戸から122戸と増加し、5倍以上となりました。導入当初の品目は、バラをメインにカスミ草、フリージアの3品に限られていましたが、スターチスやコスモスなど次第に多彩な品目が加わり、販売先も道内と東京に限られていましたが、全国各地へと広がりを見せました。

本市の花弁作付戸数は平成20年の150戸をピークに年々減少し、現在では約100戸となっていますが、花卉の主産地として安定した取引先が確保されているほか、新規就農者の受け入れを行い技術継承する農業者などがあることから、新規就農に花卉を選ぶ方も増えています。

本市で生産されている花卉

全国に誇る ふかがわの花弁

北空知広域農業協同組合連合会における本市の花弁の販売額は、例年6億円以上（下記表1）となっています。関東・関西を中心に全国で販売されていて、品質が良く安定的に生産されていると評判です。中でもスターチス・シヌアータが主力商品で、本市の年間作付面積は全道1位となっています。また、6月から10月にかけての生産量が特に多く、月別では日本一の生産量を誇る月もあるほど盛んに生産されています。

そのほか、本市のりんどうの作付面積は全道2位で、シネンシス（ハイブリッドスターチス）やおもちゃかぼちゃは一大産地として知られており、「よしの鈴バラ」は国内で唯一の出荷元であるため、大変貴重な花卉となっています。

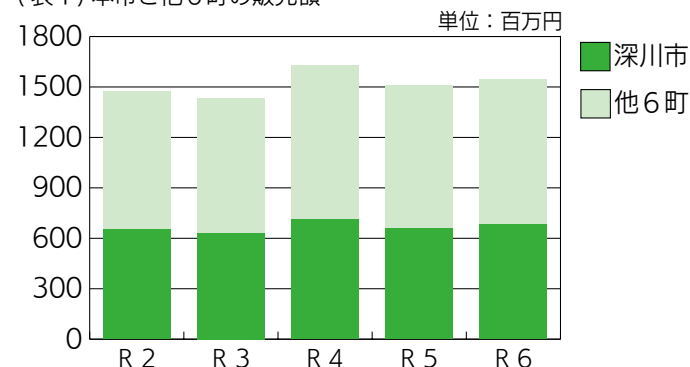
のほとんどは、本市に施設を有する「北空知広域農業協同組合連合会」を通じ集荷されます。集荷された花卉は「ホクレンの花」というブランド名で販売されていますが、90パーセント以上が道外へ出荷されるため本市で見かけることは少ないものの、ふかがわの花弁は全国各地を彩っています。

北育ち元気村 花き生産組合とは

「北空知の花はひとつ」を合言葉に平成10年に設立され、北空知広域農業協同組合連合会に事務所を置いています。

本市を含む1市6町（雨竜町、秩父別町、沼田町、北竜町、幌加内町、妹背牛町）を区域とする団体で、主に花卉の集荷販売を行っています。花卉の販売額は10年以上連続で全道1位となっているほか、60ヘクタールを超える面積で作付けされており、道内屈指の広域産地となっています。

（表1）本市と他6町の販売額



全国を彩るふかがわの花弁をおさらい

全国1位	スターチス月別生産量
全道1位	花卉の作付戸数 令和5年スターチスの作付面積
全道2位	令和5年りんどうの作付面積
国内唯一	よしの鈴バラ

「よしの鈴バラ」を作付けして 30 年以上になります。約 8,000 平方メートルで作付けしていて、現在市内で作付けしているのは自身を含め 4 戸のみです。本市以外で出荷している事例はないため、大変貴重な花卉となっています。きれいに花を咲かせますが、出荷するのは実の部分で、生け花や一輪挿しにすると存在感が増します。

鈴バラ部会長 寺本 義隆さん



鈴バラ

花卉はりんどうのみを作付けしています。主流の青いりんどうは、仏花に使われることが多く、赤や白の花の中に青のりんどうが入ると、全体が鮮やかになります。このりんどうは、最初の 2 年間は採花できませんが、一度定植すると 10 年ほど採れ続けます。2 メートルほどにもなる品種もあり、大変見ごたえがあります。

りんどう部会 西森 省吾さん



りんどう

前職は花に携わる仕事をしていて、26 年前に新規就農しました。新規就農のきっかけは、北海道は夏場の花卉の品質がとても良く、自身も北海道で品質の良い花を作りたいと考えたためです。花は魅力が多く語り尽くせませんが、場を和ませる雰囲気や人を喜ばせる力があるほか、送っても送られてもワクワクします。だからこそ、我々には責任があります。本市が道内有数の花卉の産地であることを知らない方も少なくないと感じているので、本紙を通じ、全国を彩るふかがわの花卉の魅力を知ってもらいたいです。

副組合長 内藤 敬人さん



ダリア

ダリアは古くからある花で「黒蝶」と「熱唱」という種類を主に作付けしています。

おもちゃかぼちゃ



花卉の種類はとても幅広く、おもちゃかぼちゃも花卉の一種です。本市はおもちゃかぼちゃの一大産地となっています！

北育ち元気村 花き生産組合のみなさんが紹介！

本市で作付けされている花卉の一部を

シヌアータ



15 年前に本市で新規就農し、現在は 11 棟のハウスで作付けしています。シヌアータは長持ちするため仏花によく使用されるほか、花言葉「変わらぬ心」から結婚式のブーケにも使用されています。また、ドライフラワーにしても色が抜けにくく、花の魅力が伝わり本市の主力商品となっています。出荷最盛期はお盆がある 8 月ですが、本市では 5 月頃から 11 月頃まで出荷しています。

シヌアータ部会長 西田 展好さん



ホワイトレースフラワー



10 年前に本市で新規就農しました。草花は夏向けで涼しげなものが多く、季節を楽しめる花です。種類が豊富で 10 年以上花卉に携わっていますが、全てを覚えることはできません。そんな中でも、興味のある花に出会えば作付けに挑戦できる環境が本市にはあり、主産地ならではの感慨深さがあります。

草花類部会長 辻 隆行さん

シネンシス



5 年前に U ターンし、現在は 11 棟のハウスで作付けしています。ハイブリッドスターチスの一品種「シネンシス」は、茎が細く繊細で、枝先に多くの花が付くためボリューム感があります。どんなアレンジメントにも合う名脇役のような花で、結婚式のブーケに人気です。責任産地として今後もより多くの花卉をみなさんに届けていきたいです。

H B スターチス部会長 大井 清二さん